ホットな福祉情報紙
はあとふる・ふくしま 別冊 福島県災害ボランティアセンター通信
Vol.9 2011年6月20日発行

全国から応援に来ています!

福島県各地に、全国から様々な方達が応援に来てくれています。
そんな頼れる皆さんからのメッセージをお伝えします。

社会福祉法人　高島市社会福祉協議会
井岡　仁志さん

私にとって国内で唯一未知の土地であった憧れの地「東北」。災害がきっかけになりましたが、滋賀県から来るたびに人や自然、風土の隅々まで「はあとふる」な福島の魅力を感じています。ここに暮らし続けたいという人がいる限り応援し続けます。

前橋市社会福祉協議会　ボランティアセンター
高山　弘毅さん

派遣日数が通算40日を越えました。群馬に帰っても天気予報はついつい福島からチェックしてしまう私です。全国から集まるボランティア、互いに支えあう福島県民のみなさんの姿からパワーをいただいて、これからもずっと福島県を応援していきます！

ボランティアバス発進!!「お役に立ててよかった!」

**福島県災害ボランティアセンターでは、５月のゴールデンウィーク期間中に
＜福島駅⇔新地町＞＜郡山駅⇔いわき市＞間の「ボランティアバス」の運行をいたしました。
ボランティア活動初体験のみなさんをはじめ、多くの方々に参加いただき、
家屋内外の片づけ、泥のかき出し作業等を行いました。
活動後のアンケートから参加者の皆さんの声を紹介します。**

自分の力は微力だったかもしれませんが、皆で行った活動が最後に目に見えてわかったので、少しでもお手伝いできた実感がわきました。

初めての参加だったが、ボランティアとしての役割を果たせたと思っている。

ボランティアに初めて参加しました。何をしたらいいのか全く分からなかったけれど、参加して自分の中で多くのことが変わった気がしました。

「何かの役に立ちたい」という思い、想いを共通に持っているメンバーで活動し、とても充実感があった。

目の前には、報道で見ていた風景がありましたが、報道では感じることのできないものを感じ取ることができました。

ありがとう & おつかれさま

少しの時間だったが、災害の大きさを知ることが出来た。微力ですが少しはお役に立てたような気がして嬉しかったです。

被災者の一人であるボランティアセンター長が、毎回心からの感謝の言葉を私達に伝えていただいたことに感動しました。

私は福島市在住ですが、県外から多くの方が参加されており、温かい心に触れることが出来ました。

以前のボランティア活動は少人数だったため、活動は限られていたが、団体で、皆で力を合わせてできるボランティアはとても良かったです。

ボランティアの経験の無い私を新地町の皆さんは、嫌な顔をせず温かく受け入れてくださいまして、本当にありがとうございました。

大勢の人が集まれば、何かができるという事を改めて学びました。

作業が進み、徐々に溝が現れて来るのを見て、自分にもできる事があり、ほんの少しでも協力することができたと思えました。

被災をされた方へ

「体操と笑いで健康づくり!」

大熊町の皆さんが始めたサロン活動「ひだまり」

大熊町が役場機能を移転させた会津若松市には、同町の町民が数多く二次避難されています。避難先の一つ会津東山温泉「旅館原瀧」には、63世帯240人が暮らしています。その避難住民の皆さんが、自分たちの健康維持のためにと世話役代表の秋本正夫さんを中心に始められたのがサロン活動「ひだまり」です。毎週水曜日、午前9時半から午前11時まで、同館の3階多目的ホールで開催しているサロン活動は参加無料。年齢も問いません。当日は、大熊町の保健師さんによる血圧測定があり、その後誰にでもできる「簡単体操」で楽しいひとときを過ごします。体操の指導は、大熊町で植田接骨院を営んでいた植田和徳さんが担当しています。植田さんの都合がつかないときは、スポーツ少年団のお世話をしている山本秀一さんが入ることもあるそうです。サロン活動を始めたきっかけを伺うと「個室に入るとどうしても出かけるのが億劫になってしまいます。健康維持のためにも集まる時間と場所を作りたいと思いました」と秋本さん。「自分の足だからね。優しくタッピングしてね」「仮設住宅でおいしい料理を作れるように、今から手首の筋もちゃ～んと伸ばしておきましょう」など、楽しい解説付きの体操は、毎回笑い声が絶えません。「ずっと笑っていられるのでストレス解消になります」「身体を動かすと気持ちよくてよく眠れます」とは、参加された皆さんの感想です。取材に同行した大熊町社会福祉協議会の武内智恵美さんは、避難者同士の関係を築くため、他の二次避難所にも同じような取り組みを広げて行きたいと話していました。体操と笑いで健康づくり、皆さんも始めてみてはいかがでしょう。

▲足の運動、両腕、上半身、全身と無理なく十分に身体を動かしていきます。「無理はしないでくださいね」と植田さん

▲体操の前に血圧測定

▲手首の筋もちゃんと伸ばしてね

■NPO法人、ボランティア団体のみなさまへ

WAM（福祉医療機構）の社会福祉振興助成事業 第2次募集中

東日本大震災の被災者を支援する事業を重点的に採択

募集期間　**平成23年6月1日（水）～7月15日（金）**　（必着）

助成対象となる事業の例

＊被災地の高齢者や障害者等ニーズを把握して、災害ボランティアセンターやNPOが効率的に活動できるようにコーディネートする事業
＊被災地の自治会等が地域コミュニティの再生を図る事業
＊県内外への避難中の高齢者･障害者等の状況把握し、必要な支援を行う事業

助成額　50万円以上（事業によっては700万円まで可）

問い合わせ先
独立行政法人　福祉医療機構　助成事業部　助成振興課
TEL　03-3438-9945･9946
〒105-8486　東京都港区虎ノ門4-3-13　新谷町セントラルプレイス9階
ホームページアドレス　http://hp.wam.go.jp/

編集後記

梅雨に入り、雨模様の天候が続くと思われます。現地で復興支援に携わっている皆さまも、雨で活動がないときは、神様が休めと言っていると思って休んでいただき、明日からまた福島の復興のため一緒に頑張っていきましょう!
（岩田悟）

赤い羽根共同募金

がんばろう、日本。
がんばろう、東北。

がんばろう、福島。

最新情報はホームページでご覧ください！
http://www.pref-f-svc.org